

## 硫黄鳥島

### ○概況（平成 18 年 1 月）

19 日と 27 日に海上保安庁が行った観測では、従来から見られていた弱い噴気が認められた程度で、火山活動に特段の変化はありませんでした。

19 日と 27 日に海上保安庁が行った観測（19 日は海上からの観測、27 日は上空からの観測）によると、島の北側に位置する硫黄岳火口（図 1、図 2、図 3）付近の数カ所で高さ約 150m の弱い白色噴気が、島の中央部に位置するグスク火山火口（図 1、図 4）で高さ約 30m の弱い白色噴気がそれぞれ確認されました。各火口の噴気の状況は、2005 年 12 月 12 日に海上保安庁が行った観測時と比べて特段の変化はありませんでした。また、島の周辺には変色海域や気泡は認められませんでした。

なお、気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はありませんでした。

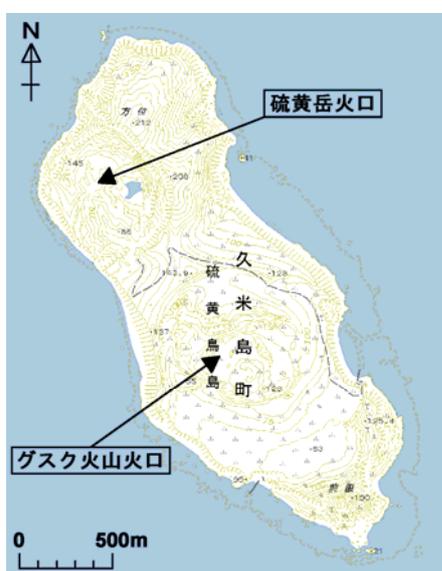


図 1 硫黄鳥島 火口の位置図



図 2 硫黄鳥島 硫黄岳火口（1月19日）



図 3 硫黄鳥島 硫黄岳火口（1月27日）



図 4 硫黄鳥島 グスク火山火口（1月27日）

※本資料は気象庁のほか、海上保安庁及び東京大学のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000 分の 1 地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。